

平成30年度 入札監視委員会審議概要

中国四国防衛局

開催日及び場所	平成31年3月13日（水）広島合同庁舎1号館付属棟2階13号会議室
委員	森嶋 久雄（委員長／不動産鑑定士） 伊藤 博文（委員長代理／税理士） 谷村 吉弘（客員研究員） 田邊 尚（弁護士） 川西 澄（大学院准教授）

I 建設工事等に関する審議

審議対象期間	中国四国防衛局 平成30年10月1日～平成30年12月31日		
審議対象件数	34件		
1. 入札状況について（参加資格の設定、指名及び落札決定の経緯等について）			
抽出件数	5件	（審議概要） 「抽出案件」 ・建設工事 ・建設コンサルタント業務等 「報告事項」 ・低入札事案について ・不調事案について ・指名停止等の措置状況について	
建設工事	一般競争（政府調達協定対象）		0件
	一般競争（政府調達協定対象外）		3件
	公募型指名競争		0件
	指名競争		0件
	随意契約		0件
建設コンサルタント業務等	2件		
	意見・質問	回答	
○委員からの意見・質問 ○それに対する回答等	<p>【抽出案件】 ○建設工事 【一般競争入札（政府調達協定対象外）】 《美保（30）特高受電所新設建築その他工事》</p> <p>・2者応募があり2回入札が行われているが、99.69%の高落札率となっている。高落札率となった理由を説明いただきたい。</p> <p>・落札業者は、1回目の応札額に対して2回目に400万円も下げた金額で応札し落札しているが、これは通常の入札においても普通に行われる応札傾向と言えるか。</p>	<p>・本件の発注方式は、一般的な工事に使用する標準図、今回整備する施設に類似した図面及び当局が提示する設計数量書により入札を行う「標準図等活用発注方式」を採用している。本方式は当局が提示した設計数量書の項目及び数量を元に入札参加者が応札額を決定するため、受注者と発注者の間に項目数量の齟齬が生じない。また、本件は特高受電所という施設であり、内装等、見積により積算する工種が少なく、躯体工事が主であるため、受注者の積算価格と局積算価格との乖離が小さくなり易い。以上が高落札率の一因ではないかと推測している。</p> <p>・発注者としては、落札者が400万円下げたに至った具体的な理由については企業判断であり、御説明することは困難であるが、基本的には応札者側の受注意欲が高かったものと考えている。</p>	

	意見・質問	回答
<p>○委員からの意見・質問</p> <p>○それに対する回答等</p>	<p>・1回目と2回目の入札を2日に亘って行っているが、なぜか。</p> <p>・通常の建築物と比べて割高ではないか。</p> <p>○建設工事 【一般競争入札（政府調達協定対象外）】 《美保（30）燃料配管整備工事》（1者応札）</p> <p>・1者応札で2回入札が行われており、99.77%の高落札率となっている。高落札率となった理由、他者では履行できないような特殊な業務なのか。</p> <p>・本件は同日で1回目と2回目の入札を行い、2回目の応札額は1回目と比較して1,200万円という、かなり下げた額での応札となっているが、1日の検討でこのような応札が可能な理由をどのように考えられるか。</p>	<p>・1回目の入札で落札しなかった場合、当局は入札業者に対し補足説明書により積算の考え方の差異について説明を行い、それを踏まえた上で2回目の入札を行ってほしい。本件については、その検討時間を含めて入札が2日に亘ったものである。</p> <p>・今回整備した特高受電所は、通常の施設とは異なり、防衛省独自の規格の構造体を採用しているため、通常よりも壁が厚く、鉄筋量も多いため、通常より割高になっている。</p> <p>・本工事は航空自衛隊美保基地に配備される予定の空中給油機に燃料を直接給油するための配管整備工事であり、全長1200mの送油管を地下1m程度に埋設する工事である。工事は飛行場を横断する送油管を埋設するため、受注者は高度な施工管理が求められ、他の一般的な工事と比べ履行できる者は限られてくる。本件は1回目の入札後に入札参加者に対し、金額が乖離している部分等について補足説明を行い、その上で2回目の入札を行っている。その説明で主要な送油管は物価誌で公表された単価を使用していること、特殊な防食工事等については専門業者からの見積を採用したことを説明している。これらを適切に見直すことで予定価格内に収まったが、本工事は使用する資機材の品目が少なく積算が単純であり、結果として高落札率になったものと思われる。）</p> <p>・スケジュール的にタイトな印象を与えるかもしれないが、2回目の入札時期は入札参加者に見積に必要な期間を聞くなど調整して決定し、特に問題なく入札は実施されている。また、2回目応札額の下げ幅については、入札参加者の判断であり、発注者としては御説明することは困難であるが、1回目応札額の2.2億円に対し、1,200万円は約5%と大きな割合ではないことから、落札業者にとっては当初から想定していた値下げ幅の範囲内であったと思われる。</p>

	意見・質問	回答
<p>○委員からの意見・質問</p> <p>○それに対する回答等</p>	<p>・落札業者について説明されたい。</p> <p>○建設工事 【一般競争入札（政府調達協定対象外）】 《広（30）防災施設（1211）法面整備工事》</p> <p>・2者が応札しているが、落札率が99.93%と非常に高い。高落札率となった理由を説明いただきたい。また、過去に同様な契約があれば、その入札状況を説明されたい。</p> <p>・落札できなかったB社の応札額がA社の応札額の倍と乖離しているが、B社も同様な積算が可能であったと思われるにも関わらずこのような応札額となった理由をどのように考えているのか。</p> <p>・過去の法面工事においては、落札率は低く抑えられているが、これと本件の落札結果の差異についてはどのように考えられるか。</p> <p>○建設コンサルタント業務 【一般競争入札】 《美保（30）燃料配管整備機械その他工事監理業務》</p> <p>・2者が応札しているが、99.74%の高落札率となっている。高落札率となった理由をご説明いただきたい。</p>	<p>・落札業者は主に燃料施設関係の工事を得意としており、実績も豊富な者である。</p> <p>・本件は一般的な法面整備工事であり、積算方法は公表された積算要領で積算することができ、難しいものではないことが、高落札率の一因と考えられる。</p> <p>・通常の積算方法はB社も承知しているはずであり、B社の入札価格が高いことの原因を推測することは困難であるが、あえて申し上げれば、本件は平成30年7月の広島豪雨災害で被害を受けた法面の工事であり、発注時期も災害直後であったため、不足する人員・資材の確保に上乗せの経費が必要と見え、積算した価格を入札価格としたのかもしれないと考えている。また、金額的に1千万円以下の小規模であったことも割高になった一因として考えられる。</p> <p>・通常であれば入札参加者も多く、競争性が働き、落札率は低くなる傾向となるが、本件を発注した時期は、先ほど申し上げたように、平成30年7月の広島豪雨災害の直後であり、防衛省以外にも中国四国地方で多数の工事が発注され、業界全体の施工力に対して需要が過剰であったため、業者としてもあまり値引きをできなかったものと思われる。</p> <p>・監理業務は積算手法及び労務単価が公表されており、予定価格は仕様書の予定業務員数と労務単価により積算されているため、入札参加者も高い精度での積算が可能であることが高落札率の一因ではないかと考えている。</p>

	意見・質問	回答
<p>○委員からの意見・質問</p> <p>○それに対する回答等</p>	<p>・本件はC社及びD社の2者が応札し、C社が落札しているが、今回の委員会で別に審議を行う「善通寺（30）庁舎改修設備設計」についてはC社及びD社を含む4者が応札し、D社が落札している。これは視点を変えればC社及びD社で落札を譲り合っているのではないか。</p> <p>○建設コンサルタント業務 【一般競争入札】 《善通寺（30）庁舎改修設備設計》</p> <p>・4者が応募しているが1者は辞退している。落札率は98.55%の高落札率となっている。高落札率となった理由、1者が辞退した理由をご説明いただきたい。</p>	<p>・一般論で申し上げれば、全体的に設備関係の監理会社の数が少ないという実情があるが、他に全くいない訳ではない。結果だけを見るとご指摘の疑念も考えられるが、C・D社で譲り合っても他の参加者がいれば必ず落札できるとは限らないので、C・D社がいわゆる受注調整を行っているとは考えていない。</p> <p>・設計業務の内、「一般業務」の部分は、積算手法が公表されており、「追加業務」の部分は、複数の業者から見積を徴集し、最も安価となる業者の見積を採用している。入札の結果、積算時に最も安価な見積を提出した業者が今回落札した者であったことが高落札率となった一因ではないかと考えている。また、1者が辞退した理由については、当該業者が入札前に他の設計業務を受注したため辞退したとのことであった。</p>

	意見・質問	回答
○委員からの意見・質問 ○それに対する回答等	【報告事項】 ○低入札事案について（1件） ○不調事案について（6件） ○指名停止等の措置状況について（2件）	
○委員会による意見の具申又は勧告の内容	なし	

2. 談合疑義案件の処理状況について			
談合疑義件数	0件	(審議概要) なし	
工事 談合情報	0件		
点検結果疑義	0件		
業務 談合情報	0件		
	点検結果疑義	0件	
	意見・質問	回答	
○委員からの意見・質問 ○それに対する回答等	なし	なし	
○委員会による意見の具申又は勧告の内容	なし		

3. 入札結果の事後的・分析結果について		
審 議 概 要	なし	
<input type="checkbox"/> 委員からの 意見・質問 <input type="checkbox"/> それに対する 回答等	意 見 ・ 質 問	回 答
	なし	なし
<input type="checkbox"/> 委員会による 意見の具申 又は 勧告の内容	なし	

4. 再苦情処理（再説明請求回数）					
再苦情申立件数 (再説明請求件数)		総件数	0 件	(備考) なし	
建 設 工 事	一般競争（政府調達協定対象外）		0 件		
	公 募 型 指 名 競 争		0 件		
	指 名 競 争		0 件		
	随 意 契 約		0 件		
建設コンサルタント業務等			0 件		
再苦情申立概要 (再説明請求概要)		申立日	件 名	契約方式	内容等
<input type="checkbox"/> 委員からの 意見・質問 <input type="checkbox"/> それに対する 回答等		意 見 ・ 質 問		回 答	
<input type="checkbox"/> 委員会による 意見の具申 又は 勧告の内容		なし		なし	
<input type="checkbox"/> 委員会による 意見の具申 又は 勧告の内容		なし			

平成30年度 入札監視委員会審議概要

中国四国防衛局

開催日及び場所	平成31年3月13日(水) 広島合同庁舎1号館付属棟2階13号会議室
委員	森嶋 久雄 (委員長/不動産鑑定士) 伊藤 博文 (委員長代理/税理士) 谷村 吉弘 (公正取引協会客員研究員) 田邊 尚 (弁護士) 川西 澄 (大学院准教授)

II 契約実施機関が締結する契約(建設工事等を除く。)に関する審議

契約実施機関: 中国四国防衛局

審議対象期間	平成29年4月1日 ~ 平成30年3月31日	
審議対象件数	398件	
1. 入札状況について(入札参加資格の設定、指名及び落札者決定の経緯等について)		
抽出件数	14件	(審議概要) 「抽出案件」 ・一般競争入札 ・随意契約
一般競争	13件	
指名競争	0件	
随意契約	1件	
	意見・質問	回答
○委員からの意見・質問 ○それに対する回答等	<p>【一般競争入札】(1者応札) 《航空機騒音測定装置等保守点検及び精密騒音計検定委託業務》 落札率 99.20%</p> <p>・中国四国防衛局では、本件を含め平成29年度に航空機騒音測定装置関係の契約を5件おこなっているが、契約相手方は全てA社またはA'社となっている(本件はA'社が契約相手方)。両者は同じグループ会社だと思われるが、他社では履行出来ないような特殊な業務なのか、ご説明いただきたい。</p> <p>・本件は1者応札で99.20%の高落札率となっている。高落札率となった理由をご説明いただきたい。</p> <p>・過去に本件と同様な契約があれば、その入札状況をご説明ください。</p> <p>・測定装置は何年経てば交換するのか。</p>	<p>・騒音測定器を導入した当初、入札によりA社製の機器を設置した経緯があることから、A社のグループ企業以外の他社にとって参入しづらいといった事情はあるかもしれないが、予定価格算定の際に他社からも見積を提出していただいているため、必ずしもA社またはA'社しか受注できないものではないと考える。</p> <p>・騒音測定器は市場への流通が限定的であり、扱っている企業がそれほど多くないため、これが1者応札かつ高落札率の要因と考えている。</p> <p>・過去3年の落札状況は、 平成28年度: 98.57% 平成27年度: 99.67% 平成26年度: 99.78% いずれも1者応札で、A'社が契約相手となっている。</p> <p>・10年経てば更新している。</p>

	意見・質問	回答
<p>○委員からの意見・質問</p> <p>○それに対する回答等</p>	<p>・A'社のほか同様の業務を行う企業はあるか。</p> <p>・なぜ、1社入札が続いているか。また、他社が参入する取組は行っていないのか。</p> <p>・見積は何社から取得しているのか。</p> <p>・当該状況が何年間も継続していることは、業者間の棲み分けを推測させるが、これを打破するため、入札参加を促すための取組を検討する必要があるのではないか。</p> <p>【一般競争入札】（1者応札） 《平成29年度中国四国防衛局補助業務（調達部）》 落札率 99.60%</p> <p>・1者応札で99.60%の高落札率となっている。高落札率となった理由をご説明いただきたい。また、過去に同様な契約があれば、その入札状況を伺いたい。</p> <p>・広島近辺の人材派遣会社は数多くあると思われるが、なぜ1者しか入ってこなかったのか。</p> <p>・入札方法は電子か紙のどちらか。</p> <p>・過去の落札率についてご説明いただきたい。</p>	<p>・民航の空港周辺で騒音測定装置の保守を実施している企業や、地方自治体が設置した騒音測定装置の保守を実施している企業など何社か存在している。</p> <p>・発注側の立場では、個別企業に入札参加の働きかけはできないのが実情である。一方、予定価格の積算にあたっては複数の企業に見積依頼を行っており、当局から保守点検業務の発注があることは他社も認識しているものと思われるが、その上で他社からの入札参加がないことに関しては何とも言えない。</p> <p>・2社から取得している。</p> <p>・企業間の棲み分けについては図りかねるものの、当該状況の問題点は当方も認識しているため、今後の対応策を検討したい。</p> <p>・4社から時間単価の参考見積を取り、その中から最も安い単価で予定価格を作成した。入札の際に採用した見積を入れた業者のみ札を入れたため高落札率となったと考えられる。また過去の入札状況として、過去4年は常に複数の業者が参加をしている。</p> <p>・こちらとしても入っていただける前提で見積をもらっていたが、入札に参加してこなかった。</p> <p>・当案件は物品役務に分類されるため紙入札で行っている。</p> <p>・落札率は以下のとおりである。 平成28年：99.3% 平成27年：80.0% 平成26年：90.1% 平成25年：77.8%</p>

	意見・質問	回答
<p>○委員からの意見・質問</p> <p>○それに対する回答等</p>	<p>【一般競争入札】（1者応札） 《駐留軍等労働者に対する健康等に係る業務委託》 落札率 100.00%</p> <p>・2者が応募し、1者が辞退、結果的に1者が応札し100%の落札率となっている。落札率100%の理由、また、過去に同様な契約があれば入札状況を説明願いたい。</p> <p>・市場価格調査とは、どのような内容で行っているのか。</p> <p>・入札を辞退している業者がいるが、その辞退理由について確認したい。</p> <p>【一般競争入札】（1者応札） 《ガソリン等購入及び洗車》 落札率 99.27%</p> <p>・1者応札で99.27%の高落札率となっている。高落札率となった理由をご説明いただきたい。また、過去に同様な契約があれば、その入札状況を説明されたい。</p>	<p>・予定価格の算定は、業者からの見積を聴取し、総価の最低価格を採用しており、予定価格と同価格で入札した業者が落札しているため、このような落札率となっている。少なくとも、平成27年度から平成29年度まで同じ業者が落札し、落札率100%で契約している状況である。毎年、専属産業医の確保に向け、産業医の在籍する医療機関及び産業医紹介業者に対し市場価格調査を実施し、専属産業医の確保に努めているところであるが、対応可能な業者は複数見つからないのが現状である。なお、平成30年度と同契約については、2者の参加があり、落札率約85%となった。</p> <p>・産業医の在籍する医療機関及び産業医紹介業者に対し、産業医の派遣の可否、対応可能日数（時間）及び時間単価について調査を行っている。しかしながら、調査の結果、現状では、派遣不可の回答が大多数を占めている現状である。</p> <p>・確認は行っていないため、今後は確認するようにしたい。</p> <p>・ガソリン及び軽油は、経済産業省資源エネルギー庁が毎週公表する「石油製品小売市場調査（都道府県別）」を参考とし、エンジンオイル及び洗車については、広島合同庁舎から近傍の給油所2者から参考見積を聴取した上で、市場価格を反映した予定価格を作成している。入札の結果として、第1回入札価格が予定価格を超えており、第2回入札で落札していることから、落札率は高くなったものと考えられる。また、過去の落札率は、平成28年度：97.97% 平成27年度：99.39% 平成26年度：99.37% 平成25年度：99.26% となっており、いずれも1者応札となっている。</p>

	意見・質問	回答
<p>○委員からの意見・質問</p> <p>○それに対する回答等</p>	<p>・基準となる価格があり、高落札率となるのはやむを得ないと思われるが、1者応札となった理由についてはどうか。</p> <p>【一般競争入札】（複数者応札） 《返還物品の売払い（岩国飛行場）（岩国飛行場（H27）コミュニティ地区既設建物解体工事）》 落札率 277.76% 《返還物品及び施設発生物品の売払い（岩国飛行場及び祖生通信所）（岩国飛行場（H27）下士官宿舎新設等建築その他工事（その3）外21件）》 落札率 253.65% 《返還物品及び施設発生物品の売払い（岩国飛行場及び海上自衛隊岩国基地）（岩国飛行場（H24）立体駐車場（B）新設土木工事外25件）》 落札率 139.75% 《施設発生物品の売払い（陸上自衛隊善通寺駐屯地）（善通寺（26）庁舎改修等電気その他工事外7件）》 落札率 106.09%</p> <p>・5件の売払契約があり、7者（1件は3者）の応札者があったが、内4件の落札者はすべてA社である。落札者が偏った理由を説明されたい。</p> <p>・過去に同様な契約はあるのか。</p> <p>・予定価格の積算方法についてご説明いただきたい。</p>	<p>・1者応札については、入札参加可能と思われる近隣の業者も、中国5県でも直営店及び協会の状況であり、四国4県もいると対応できない旨回答したところ、他地域の官公庁と比較すると小規模であり利益が出せそうにない旨回答があったこと踏まえて、今年度の1者応札の改善策として、1年度においては他官署との共同調達による契約手続きを進めており、調達数量の拡大（スケールメリット）に伴う他者参加に期待しているところである。</p> <p>・落札者が偏ったことについては、明確な理由は分からないが、入札公告で入札場所、金属種別、売払数量等がわかった時点で、入札に参加する業者の力の入れようが違ってくるものと思われる。今回、委員ご指摘の4案件の場合、高値でも多額の利益が得られるものと判断したため、このような入札結果に至ったものではないかと考えられる。</p> <p>・平成27年度に似たような偏りはあるものの、過去、同様な契約はない。</p> <p>・金属種別スクラップごとの数量に、日刊市況通信の最新単価を乗じた額から経費等を減じた額で算出している。</p>

	意見・質問	回答
<p>○委員からの意見・質問</p> <p>○それに対する回答等</p>	<p>・平成29年11月に実施した入札については、他の時期に実施した入札と比べて落札率が200%超と高いが、その要因は何か。</p> <p>【一般競争入札】（複数者応札） 《駐留軍等労働者に対する雇用前健康診断等の業務委託》 落札率 100.00%</p> <p>・2者が応募し、1者が辞退、結果的に1者が応札し100%の落札率となっている。落札率100%の理由、また、過去に同様な契約があれば入札状況を説明願いたい。</p> <p>・平成28年度は、落札率94.5%となっているが、その理由について説明願いたい。</p> <p>・雇用前健康診断の実施場所はどこか。</p> <p>・入札を辞退している業者がいるが、その辞退理由について確認したい。</p> <p>・平成27年度以前と平成28年度以降で、全く異なる業者が入札に参加している理由について確認したい。</p> <p>【一般競争入札】（複数者応札） 《平成29年度美保飛行場周辺移転措置に係る土地測量業務》 落札率 29.57% 《徳島（29）竜王山無線中継所施設測量業務》 落札率 23.47% 《平成29年度岩国飛行場周辺移転措置に係る土地測量業務》 落札率 29.07% 《山口（29）宿舎施設分筆測量業務》 落札率 42.42%</p>	<p>・明確な理由は分からないが、一般的に落札率が高くなるのは、予定価格積算時の相場に比べ入札時の相場が高くなっているためである。また、予定価格の積算にあつては、入手できる最新の単価を使用しているが、スクラップ業界での相場とは、多少の違いが生じているのも一因ではないかと考えている。国としては、この売払については、一般の競争入札とは異なり、落札率が高ければ高いほど国庫に入る金額が高くなるため、国益としては何ら問題はないものと考えている。</p> <p>・予定価格の算定は、業者からの見積を聴取し総価の最低価格を採用しているが、予定価格と同価格で入札した業者が落札しているため、このような落札率となっている。</p> <p>・予定価格は、業者からの見積を聴取し総価の最低価格を採用しているが、入札時に企業努力等により、価格を下げたと思料される。</p> <p>・契約者は、東広島市に所在する医療法人であるが、同法人は廿日市市大野に所在する医療施設で雇用前健康診断を実施している。</p> <p>・確認は行っていないため、今後は確認するようにしたい。</p> <p>・平成28年度に米軍再編により、日本人従業員が増加したことに伴い、雇用前健康診断の受診対象者も増加したことから、平成27年度以前の医療機関では対応が難しくなったためと思料される。</p>

	意見・質問	回答
<p>○委員からの意見・質問</p> <p>○それに対する回答等</p>	<p>・測量業務の落札率が23.47%～42.42%と低くなっている理由を説明されたい。</p> <p>・企業努力の結果によるものといっても、極端に安価であるような印象を受けるため、業者がこの価格でも応札できたのは、どういう要因があると考えられるか。</p> <p>【随意契約】 《営繕積算システム用一次単価・市場単価データ購入》</p> <p>・1者見積で落札率は100%となっている。本契約者以外にデータ購入先はないのか説明いただきたい。また、過去に同様な契約があれば、その契約状況を説明いただきたい。</p>	<p>・測量業務の予定価格は、一般に公表されている公共工事設計に労務単価及び積算手法により算定しているため、応札業者は予定価格を踏まえた上で各業者の職員、保有器材等及び利益等も考慮し、応札額を決定しており、落札率が極めて低くなったのは、いわゆる企業努力の結果であると考えられる。なお、品質については、成果検定を義務付けており、十分に確保している。</p> <p>・今回の測量においては、比較的面積が小さく、容易に業務が実施できるところや、本業務を受注するところ、国や地方自治体が行う測量業務の入札に参加できないところから、実績づくりの意味合いもあるため、この価格も応札されるのではないかと考える。</p> <p>・現在調達部では、国・都道府県等の全ての公共工事発注機関が使用する「営繕積算システムRIBC」を使用し、建設工事の積算を行っている。「営繕積算システムRIBC」では、A社及びB社が有償で提供する「RIBC専用の「資材単価データ」、「市場単価データ」を読み込み、両者を比較して自動的に安価な方を選択し、標準単価を作成している。RIBCの運用には、RIBC専用の単価データが必要であるが、これらは当該2者しか提供していないため随意契約により当該データを購入している。なお、過去の契約としては、平成26年度から平成30年度の実績によると同様の契約を行っている。</p>

2. 談合疑義案件の処理状況について		
談合疑義件数	0 件	(審議概要) なし。
談合情報	0 件	
点検結果疑義	0 件	
○委員からの 意見・質問 ○それに対する 回答等	意見・質問	回 答
	・なし。	なし。
○委員会による 意見の具申 又は 勧告の内容	なし。	

3. 再苦情処理（再説明請求回数）				
再苦情申立件数 (再説明請求件数)	総件数	0 件	(備考) なし。	
一般競争		0 件		
指名競争		0 件		
随意契約		0 件		
再苦情申立概要 (再説明請求概要)	申立日	件名	契約方式	内容等
○委員からの 意見・質問 ○それに対する 回答等	意見・質問		回 答	
	なし。		なし。	
○委員会による 意見の具申 又は 勧告の内容	なし。			